

# 人生設計のための When2.0的 Event Tagging システムの設計

篠田 孝祐  
防衛大学校 情報工学科

〒 239-8686 神奈川県横須賀市走水 1 丁目 1 0 番地 2 0 号

kshinoda@nda.ac.jp  
<http://profile.k4no.info/>

## 1 はじめに

自分のこれまでの研究活動を振り返って、発表した研究会が自分の研究内容と十分にマッチしていた、十分な査読が期待できる会議に投稿していたといえるだろうか。また、自分が知らない分野の論文や研究会を探すときに、その会議がどのようなものであるのか、その分野での位置づけなどで苦労したことはないだろうか。そして、参加する会議にどのような参加者がいるのか考えているだろうか。研究者にとって、どの研究会に参加しどの国際会議に投稿するのかを定める作業は、研究計画としてはもちろんのこと、論文のサーベイや自身の将来を睨んだブランド作りとしても重要な作業である。また、国際会議のような場では、同じ様な目線をもつ研究者を知るなどネットワーキング活動にとっても重要な場でもある。この作業を行うには、研究会、シンポジウム、国際会議（以下、学術イベントと呼ぶ）の存在、そして、どのような研究者が参加するのを知っている必要がある。当然のことではあるが、我々は知っている範囲から選ぶしかない。

このような事態が起きるのは、

1. 得られる情報の多くは人間関係に依存している
2. 検索エンジンでは検索が難しい情報である

あたりが要因として考えられる。

特に、若手研究者の場合、意思決定に関わる部分の多くが、自身の社会ネットワーク（組織や人間関係）に依存しているのではないだろうか？しがらみと云ってしまえば簡単ではあるが、ターゲットとしている分野の学術イベントの外部的な評価などを知ることは、研究分野の細分化などもあり、経験や人脈がなど欠かせない。そして、そのような曖昧な情報を機械的に検索することは難しい。近年、このような情報を伝達・検索、そして共有する仕組みとしてソーシャルタギングなどが提案され実際のサービスとしても運用されている。本稿では、When2.0 やソーシャルカレンダー（ソーシャルイベント）などと呼ばれているフレームワークとソーシャルタギングを組み合わせたイベントタギングを利用したシステムの設計・実装を行うにあたり、システムへの要求や、将来的な価値などを考察する。そして、研究者はもちろん、様々な人生設計のためのキャリアデザインをサポートするイベントタギングシステムの作成に取り掛かりたい。

## 2 学術イベントの情報を伝達・共有すること

学術イベントへの投稿や参加は、時間や金銭など様々な制約を受ける。そして、その活動には、有益な情報を得ることや新しいネットワーク作りなどの効用を期待する。論文の投稿という点だけであれば、そこにある制約は時間的なものだけであるが、論文投稿は、その後の発表へとつながることも考えれば空間的な制約（金銭や移動の制約）も考慮する必要がある。これらの制約は、もともと選択可能な解が少なければ問題ないかもしれないが、関連研究の分野まで含めると一つの研究テーマでも多数の研究会や国際会議への

投稿・参加の可能性が考えられる。それらの情報を集め、精査し、選択することは、一個人の活動には大きな負担となるため、必然的にグループ内での情報共有が行われてきた。

提案システムでは、これまでグループ内での共有情報であった情報を、オープンな情報として共有すると同時に、多くの人と共有することで、新たに期待できるであろう効果を考察する。

### 3 学術イベントに含まれる情報

Event としての研究会や国際会議には以下のような要素が考えられる。

- 日程: 論文締め切り (abstract 締め切り), 会議開催
- 分野: Topics of Interest, Organizing Committee
- 場所:
- 併設会議:

これらのイベント情報は、主に iCal 形式をベースとして、保存、配布することを想定している。その際、各属性の属性値の固有名詞ならびに、利用者が各自設定するタグとし、そのタグをクエリとしてカレンダー情報として作成する。

### 4 タギングされた学術イベントの副次的利用

学術イベントであれば、投稿者や発表者 (投稿者の部分集合)、主催者が当然いる。単純にイベントの有無を知るための手段として用いるには、イベントタギングはオーバースペックであり、すでに提供されているソーシャルカレンダーや、イベント登録システムで十分である。ソーシャルブックマークのように興味をもっているであろう人数の一部を知る機能が提供されたならば、多くの人が興味をもつかもしれないイベントであるといえるかもしれないが、ソーシャルブックマークを始めとした集合知を活用するシステムの多くは確定した「過去」の情報に対する評価であり、多くが「将来」の情報であるイベントに応用可能であるかはわからない。そこで、本稿では、「過去」の情報の活用を試みる手段としてイベントのレーティングを考えている。

このレーティングを行うに辺り前提として「レベルが高いとされる会議にはレベルが高いとされる研究者が関わる」という仮説が正しいとする。つまり、学術イベント情報群は「イベント」「研究者」「タグ」の3種類のノードをもつ3部グラフとして表現でき、任意の「タグ」に関係する「イベント」群は「研究者」で格付けができると考えられる。

さらに、この情報と研究者ネットワークを関連づけることができるならば、参加 (投稿・査読) するであろう研究者の範囲などの予測にも応用できるかもしれない。

### 5 人生設計のための Event Tagging

空間情報を検索できるようになりつつある現在、生存時間の少ない情報であるイベント情報を適切に広め、サポートすることは、セレンディピティという面でも重要である。本稿や今後作成するよていのシステムでは、学術イベントを対象とすることになるが、基本的な部分だけみれば変更する事なく、一般的なイベントにも活用できるのではないかと考える。ビジネスでの利用としては、講習会や展示会、個人の利用では、バーゲン、季節限定の観光、物産展、期間限定商品、合コンなどのイベントがあり、これらのイベントを個々の独立したイベントとして捕らえるのではなく、その関連性に着目することで、イベントスケジューリングの効用を高めることを支援したい。既存のサービスは、“誰かと共有する”ことを主としている。だが、そもそもイベントの多くは一個人だけで成り立つものではなく、誰かしらと共有して当然の情報である。つまり、キャリアデザインという視点からイベントをみるならば、知っている誰かとの共有だけでなく、どのような人たちと共有でき、それがどのように評価・影響するのかを想像できることが重要ではないだろうか。提案システムが、若手研究者のキャリアプランに役立つものとなるよう、賛否関係なく意見をいただけたら幸である。